

認知症に係る取組状況等について

2022年8月29日 認知症医療介護推進会議 公益社団法人 全日本病院協会

医療従事者等の認知症対応力向上の促進 進捗状況

病院看護師のための認知症対応力向上研修会

【概要】

- 身体疾患のために入院した認知症患者に対する病棟における対応力とケアの質の向上を図るための取組みや多職種チームによる介入を評価する項目である「認知症ケア加算2・3」に対応した研修。
- 本研修プログラムの一部は、厚生労働省の「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」に該当する内容として実施し、2日間通して参加した方には、「病院看護師のための認知症対応力向上研修会」及び「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」の2つの受講修了証を発行。
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、近年はオンライン研修として継続して開催。

【実績(2016年開始～2022年8月現在時点)】

開催回数：12回
合計修了者数：4260名

全日本病院協会 総合医育成プログラム

【概要】

- (公社)全日本病院協会が(一社)日本プライマリ・ケア連合学会及び筑波大学との協力のもと提供する、全34単位構成のプログラム。
- 高齢患者が著増する中で、多職種からなるチーム医療のマネジメントが必要となる中、総合診療能力を身につけて新たなキャリア形成を指向する医師を支援するためのプログラムとして策定。
- 「医療運営」「診療実践」「ノンテクニカルスキル」の3分野から成り、「診療実践」のプログラムとして「認知症」の講座を実施。

【実績(2018年開始～2022年8月現在時点)】

合計受講者数：130名
合計修了者数：40名

医療従事者等の認知症対応力向上の促進 進捗状況

病院職員のための認知症研修会(ユマニチュード入門研修)

【概要】

- 2013年度より、認知症の方へのケアメソッドである「ユマニチュード」を学ぶ研修会を年1～2回程度開催。
- ユマニチュードの基本的な考え方と初歩的な実践を学ぶ2日間のプログラム。
- 参加対象:医師・看護師・リハビリテーション職員・医療ソーシャルワーカー 等

【実績(2013年開始～2022年8月現在時点)】

開催回数:12回

修了者数:1100名

病院管理者のためのユマニチュード

【概要】

- 2020年度より、病院の管理者を主な受講対象とした研修会を年1回程度開催。
- 「ユマニチュードの哲学」を中心に基本的な考え方を学ぶとともに、具体的な病院等への実践事例について学ぶ1日間のプログラム。

【実績(2021年開始～2022年8月現在時点)】

2020年度:2021年3月20日(土) 参加者数 74名

2021年度:2022年1月16日(日) 参加者数 90名

■医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- ▶医療者間において認知症は誰もがなりうる病であるという認識が広がった一方、患者数の増加に伴い認知症の確定診断をする機関は不足しており、認知症対応病院・施設と住まいの場と確定診断という認知症に携わる社会基盤の充実が肝要と考える。
- ▶認知症患者の生活上、健康・衛生面及び金銭・生活面における自己管理の維持に係る困難が考えられる。地域における認知症サポーター養成の拡充のほか、認知症サポーターそのものについての周知啓もう、及び介護保険外のサービス活用を含めた、見守りや声掛けのできる地域づくりが求められる。
- ▶認知症対応力向上研修等、病院の医療従事者や介護職を対象とした種々の研修は定着してきた一方で、研修後に自施設で役立てることができているかの活動状況が見えにくく、実際の認知症対応に活かされているのか評価が必要。また、研修修了者へのフォローアップの機会も必要ではないか。

認知症施策推進大綱における課題

■普及啓発・本人発信支援

▶認知症サポーター養成の継続に加え、サポーター同士の交流機会の充実など、地域において活動しやすい環境の調整ができれば、サポーターのやりがいに繋がるのではないか。

■予防

▶認知症は一つの出来上がった疾患として対策が立てられている印象があるが、その病態、患者の年齢層も様々である。少し物忘れがはじまる等の高齢者が集まるサークル的な集まりとして、地域、介護福祉サービス、医療施設など様々な場所で行われる「メモリー・ケア」の仕組みを考慮してはどうか。

■認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

▶「認知症」に対する偏見は、以前に比べ減少しているものの、まだまだ根強く、地道な取り組みが必要。

▶認知症カフェの数は自治体ごとに増加していると感じる一方で、その必要性や機能などについての理解は十分に進んでいないと考える。「認知症カフェとは」についてさらなる啓もう活動が必要。